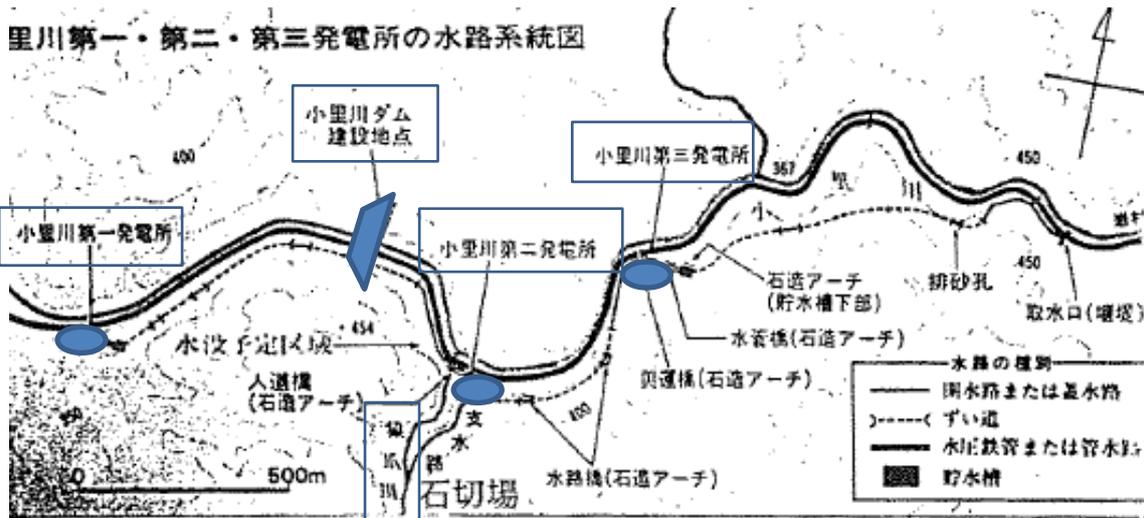


もっと知ろう “陶”

25.川折の発電所

小里川ダムの完成前、小里川には通称「川折の発電所」という 3 つの小規模水路式発電所がありました。下流から第 1、第 2、第 3 と名付けられ、最下流の第 1 発電所こそ稲津町川折にありましたが、その上流の第 2・第 3 は瑞浪市陶町水上にありました。建屋が小里川左岸にあり、左岸は陶町水上（右岸は山岡町田代）だからです。



小里川水電 諸施設位置図

従って、残骸(発電所遺産)の発電用水路跡や道の駅「おばあちゃん市」に展示されている発電機や「奥運橋(ようんばし)」と言われていた石造のアーチ橋(通称「めがね橋」)は陶町の遺産でもあります。

発電所には住み込みの管理者がおり、その子供は陶の学校に通っていました。猿爪川沿いの、通称小滝道を通って樋の下に出るのですが、小滝道は幅 1~2m の山道です。下校の際は、夏場はともかく、冬場は真っ暗で心細かったことと思います。



最下流の第1発電所の現在(県道20号線から見えます)

この発電所のうち完成したのは第 2 発電所が最も早く大正 7 年(1918 年)に完成し、出力は 130kw でした。続いて最下流の第 1 発電所が大正 11 年に完成(出力 150kw)、最上流の第 3 発電所が最も遅く大正 14 年に完成(出力 180kw)した。

現在の小里川ダムの発電量は、1,800kw で一般家庭 600 世帯分というから、現在の猿爪分も賅えないこととなります。昔の川折の発電所は 3 つの出力を合わせても 460kw にしかありません。これは、昔の電気使用量がいかに少なかったか、現在がいかに電気に依存した社会かを物語っています。